

**2021 年度（総合型選抜）AO 選抜入学試験 文学部 国際文化学域
「人文学プロポーズ方式」**

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際文化学域	45	35	31

2. 第一次選考<ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等>

(1) 評価ポイント

提出された出願書類に基づいて選考します。多くの受験者が、自身の将来も見据えて、こんなテーマについて学びたい、と意欲的に表明してくれますが、その内容が国際文化学域および2回生以降に所属する専攻の学びと関連づけられている場合、いっそう高評価を与えることとなります。

(2) 解答状況

全体的に基礎学力が高く、志望理由書もおおむね意欲的でしたが、プロポーザルシートのなかには、国際文化学域の教学内容とずれているものも若干ありました。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

着眼したテーマそれ自体の魅力、プレゼンテーションでの表現力、そして質疑応答ならびに面接での受け答え、といった観点で総合的に評価します。質疑への応答が的確でない場合は、プレゼンテーションは高度でも、評価は当然、減じられることとなります。

(2) 解答状況

プレゼンテーションのテーマはじつに多様でしたが、その多くが意欲的で、技術的にも求める水準を超えるものでした。ただ、自身で取り扱ったはずのテーマなのに、少し突っ込んだ質問や具体的な計画立案の話題になると応答できないケースも稀にありました。

(3) 試験（プレゼンテーション・面接）内容

試験は、①プレゼンテーション（10分）および質疑応答（10分）、②個人面接（15分）、の順でおこなわれます。プレゼンテーション後の質疑応答では、内容に関して一歩踏み込んだ内容や具体的な研究方法や計画など、基本的なことを確認します。個人面接では、自身の関心の背景や、それを国際文化学域での学びにつなげる構想について、発展的に尋ねます。

(4) 出題（プレゼンテーション・面接）の意図

大学での学びに向けた意欲をまず問う、そのことは言うまでもありません。しかし、期待するのは、意欲だけが空回りするのではなく思考力、表現力、計画立案力もが備わっていることです。一人あたり 30 分を超える対面式の試験の出題には、それを的確に見極めようとする意図が込められています。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

文学部内の、他にもない国際文化学域を志望する以上、日頃から国際的な視野に立って文学や歴史、あるいは文化に関心を寄せてほしいと願います。そのうえで、当入試方式を通じて入学する諸君には特に、「探究したいテーマ」の魅力や、計画からゴールまでを見据えた実行力で、他の学生を引っ張るクラス内存在になってほしいと、おおいに期待しています。

以上